

競 技 注 意 事 項

1. 競技規則は、2016年度日本陸上競技連盟規則並びに本大会実施要項・監督会申し合わせ事項による。但し、この小学生の県大会では、スタートは同じ競技者が2回不正スタートをした場合に失格のルールを適用して実施する。スタートの合図は、日本語で行う。

2. 招集について

(1) 招集所は、北側バックスタンドの裏側（聖火台の北側）に設置する。

(2) 招集開始時刻と完了時刻は次のとおりとする。点呼に遅れたものは、当該種目に出場できない。招集開始時刻に点呼を開始し、招集完了時刻に移動を開始する。

	種別	招集開始	招集完了
トラック競技	予選 <small>(タイムレース決勝も含む)</small>	35分前	20分前
	決勝	25分前	15分前
フィールド競技	決勝	45分前	30分前

3. リレーのオーダー用紙は、予選においては選手受付時に受付場所で受け取り、女子は9：15、男子は9：45までに選手招集所の競技者係へ提出する。決勝においては、選手招集所でオーダー用紙を受け取り、招集完了1時間前までに選手招集所の競技者係へ提出する。

4. 全天候舗装走路では火傷の危険があるので、素足での競技参加は禁止する。

5. 100m、80mH、4×100mR、走幅跳、走高跳、ジャベリックボール投の6種目は、スパイクシューズを使用してもよい。ピンの長さは9mm以内の平行ピンとし、ピンの本数は11本以内とする。

6. トラック競技決勝（100m、80mH、4×100mR）の走路順は、本部抽選により決定し、選手招集所に貼り出す。

7. スタートはクラウチングスタートを原則とするが、スタンディングも認める。スターティングブロックは使用してもよい。

8. リレー競技におけるテイクオーバーゾーン手前からの助走マーク（10mの補助ゾーン）の使用を認める。ただし、走者が2つ以上のテープなどのマークをつけることは禁止する。

9. 80mHは、ハードルの高さ70cm、ハードル間7m、ハードルの台数9台、スタートから第1ハードルまで13m、最終ハードルからゴールまで11mとする。

10. 走幅跳は本部前ピットで男女とも実施する。一人3回の試技とし、ベスト8はしない。

11. 走高跳の跳躍方法は、はさみ跳びとし、マットへは足ウラからの着地を原則とする。背、腰から落下した場合は無効試技とする。最初の試技の高さは女子は105cm、男子は110cmとし、以後5cmずつバーを上げ、女子は125cm・男子は130cmになったら、3cm刻みにバーを上げる。同一の高さに挑戦できるのは3回ずつとするが、同一の高さでなくとも3回続けて失敗した場合は失格とする。

12. ジャベリックボール投は、大会事務局が準備したものを使用し、助走距離は15m以内とする。一人3回の試技とし、1回ずつ投げ、その都度記録を測定する。

13. 表彰について

(1) 各種目6位までの入賞者には賞状、3位までの入賞者にはメダルを授与する。入賞者は、決勝記録発表後ただちに本部の表彰者控所に集合すること。

14. 全国大会について

(1) 本大会で1位になった選手・チームは、表彰終了後、全国大会の申し込み手続きを行うこと。

(2) 全国大会に出場できるのは、100m（5、6年男女各1名）・80mH男女各1名、走幅跳男女各1名・走高跳男女各1名・ジャベリックボール投男女各1名・リレー男女各1チームとする。

ただし、同一人が2種目を兼ねて出場することはできない。(リレーも1種目とする) リレーチームの編成は、本大会に参加した時点でのリレーチームであり、本大会後の変更や追加エントリーは認められない。また、リレーチームメンバーのうち1名でも他種目に回った場合、そのリレーチームは全国大会への出場資格を失う。居住都道府県と異なる都道府県でのチーム所属は可能とする。ただし、一人1所属とし、複数チームへの所属は認めない。また、選考会への出場については、一人一都道府県とする。複数都道府県での出場は認めない。県外の小学校へ通学している選手については、選考条件があるので事前に確認しておくこと。(前年度の12月までに、チームに所属していること。)

- (3) 1位になった選手・チームが全国大会の出場を辞退した場合は、2位以下(順次繰り上げ)の選手・チームが出場することができる。
- (4) 全国大会は、平成28年8月19日(金)～20日(土)の予定で、神奈川・日産スタジアムを会場に行われる。

競 技 会 運 営 留 意 事 項

○事故防止及び競技者はじめ関係者の安全を期すためのテント設営の際の取扱い基準について

- (1) テント設営にあたっては、地面とテントの支柱をロープと杭等により固定すること又は支柱にバランス良くテントウエイト(オモシ:土砂などを入れた袋等(10～30kg程度)を支柱にくくりつけるなど)を取付けること。
- (2) 風速3m/秒以上になった時又は3m/秒以下でも軽い突風、つむじ風などが発生した時は、アナウンスによる注意及び指示に従って安全対策の実施状況を点検し、上記の基準(1)を徹底することまた、危険と思われる突風、つむじ風などが発生した時は、テントをたたみ飛ばされないようにすること。
- (3) 倒壊及び人身事故があった場合は直ちに状況を確認のうえ大会総務に口頭で報告するとともに、ケガ人等の程度を見て必要に応じ救急車を要請すること。

○災害・事故発生に対する措置について

- (1) 怪我の対応について
 - ・ 救護役員(養護教諭)による応急手当を行う。
 - ・ 山形陸上競技協会派遣医師による手当てを行う。
 - ・ 近隣病院へ搬送する。この場合は、引率者または保護者対応とする。
- (2) 災害への対応
 - ・ 利用施設の災害対応マニュアルにしたがい避難・対応する。
 - ・ スタジアム職員、競技役員の指示に従い避難する。
 - ・ スタジアムは基本的に耐震設計されているので安全である。揺れが収まるまで上や近くの備品が倒れてくることを警戒しながら安全なところにとどまる。
 - ・ 競技続行の判断は、審判長、総務で協議の上行い、放送により通知する。